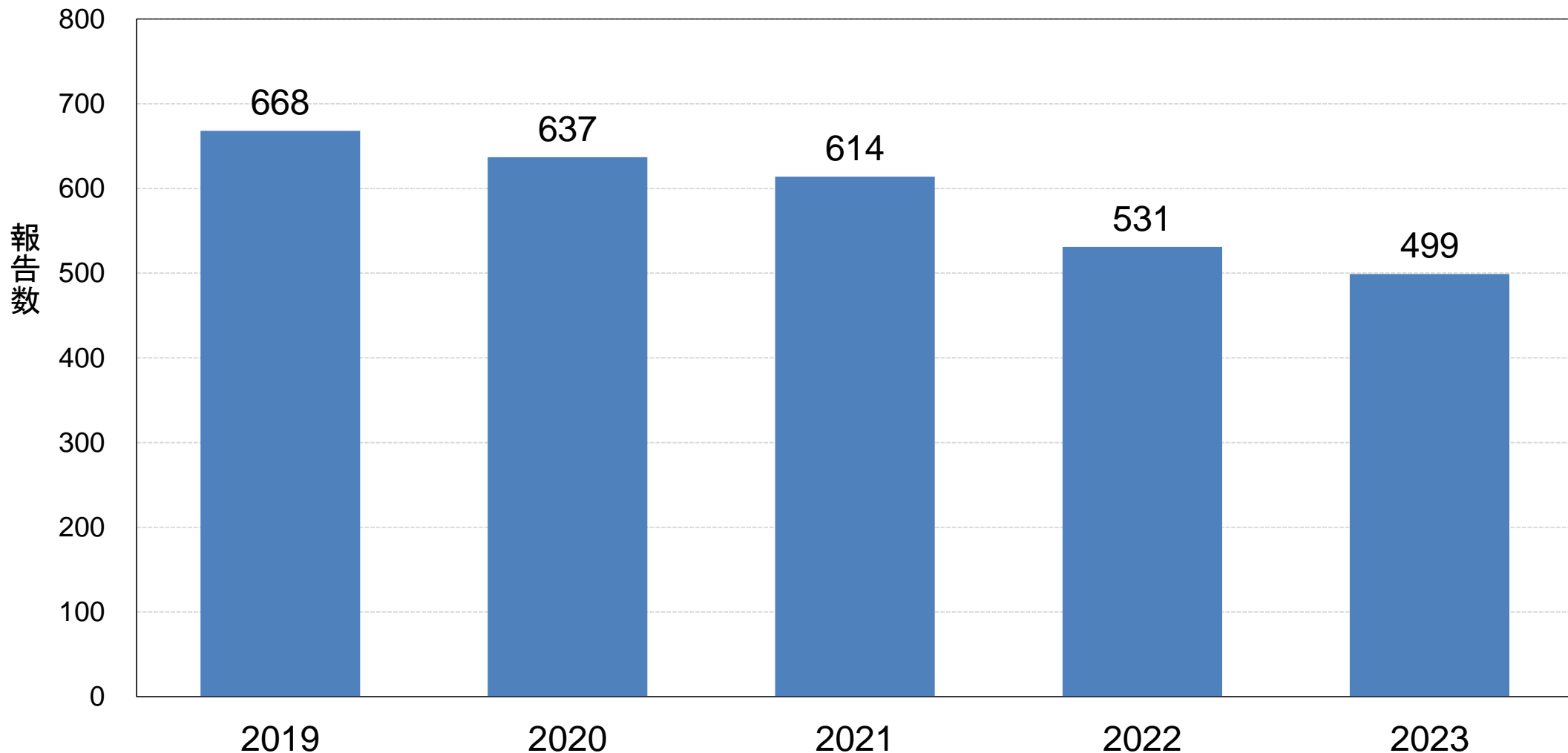


北海道における結核の発生状況（2019～2023年）

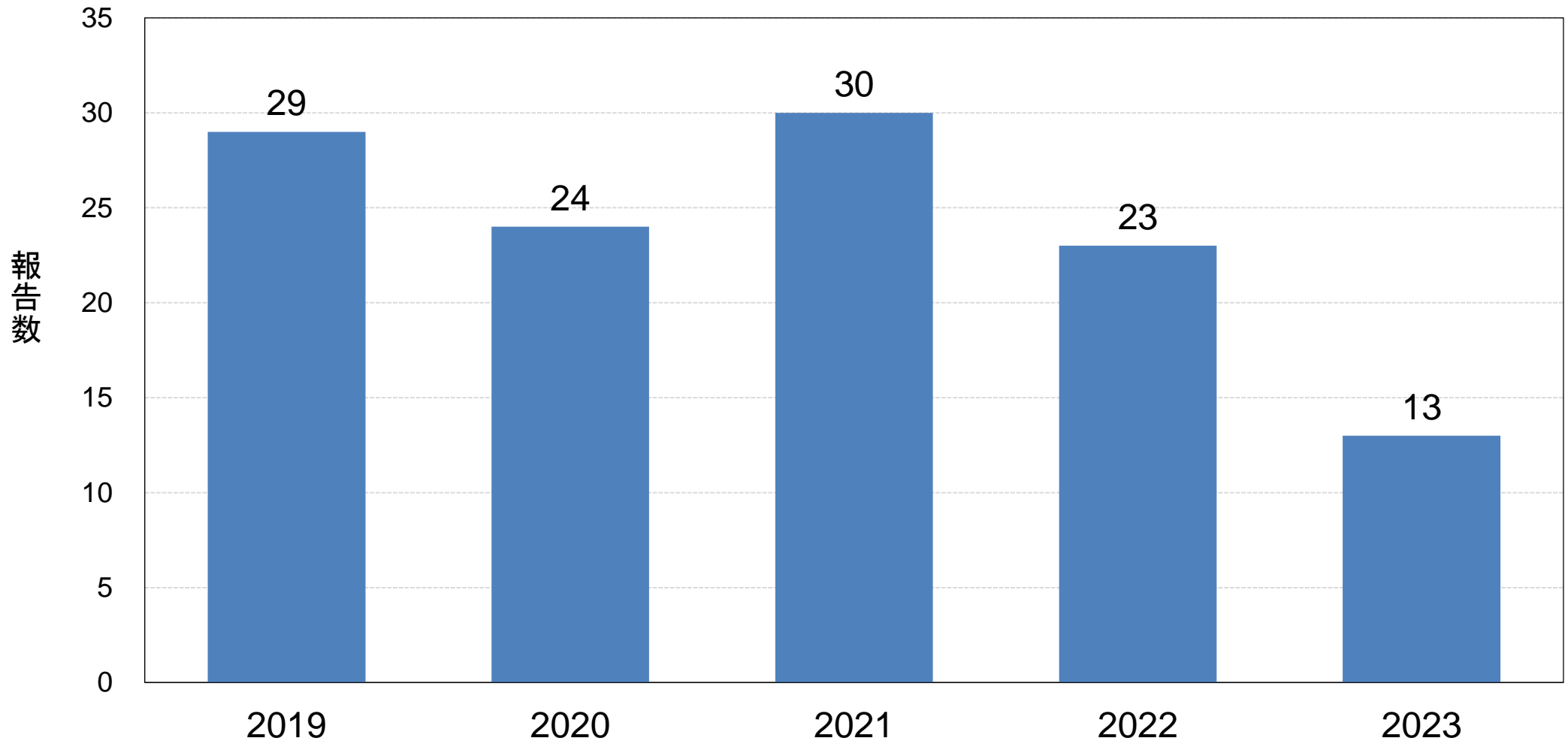
資料4-3



- 報告数は減少傾向にあり、北海道では2023年に499例の報告があった。
【参考】2021年には結核罹患率（人口10万人対）が9.2となり、結核低まん延国（※）の水準を満たした。

※WHO（世界保健機関）は、結核まん延の程度を「高・中・低」の3つに分類し、結核罹患率が人口10万人当たり10未満が低まん延国、10以上100未満が中まん延国、100以上が高まん延国と定義している。

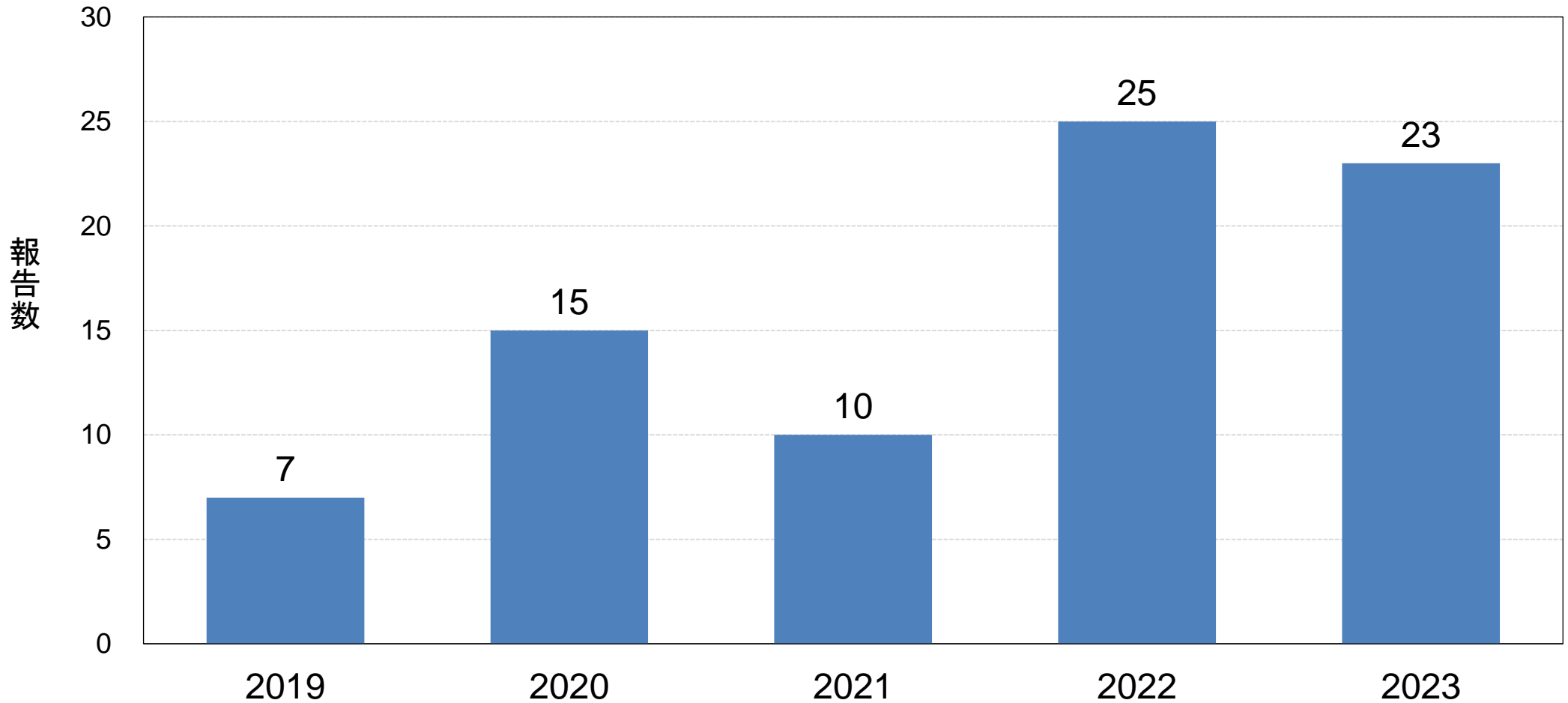
北海道におけるエキノコックス症の発生状況（2019～2023年）



- 2019～2022年には年間25例程度の報告数で推移したが、2023年は報告数が減少し13例報告された。

北海道における回帰熱の発生状況（2019～2023年）

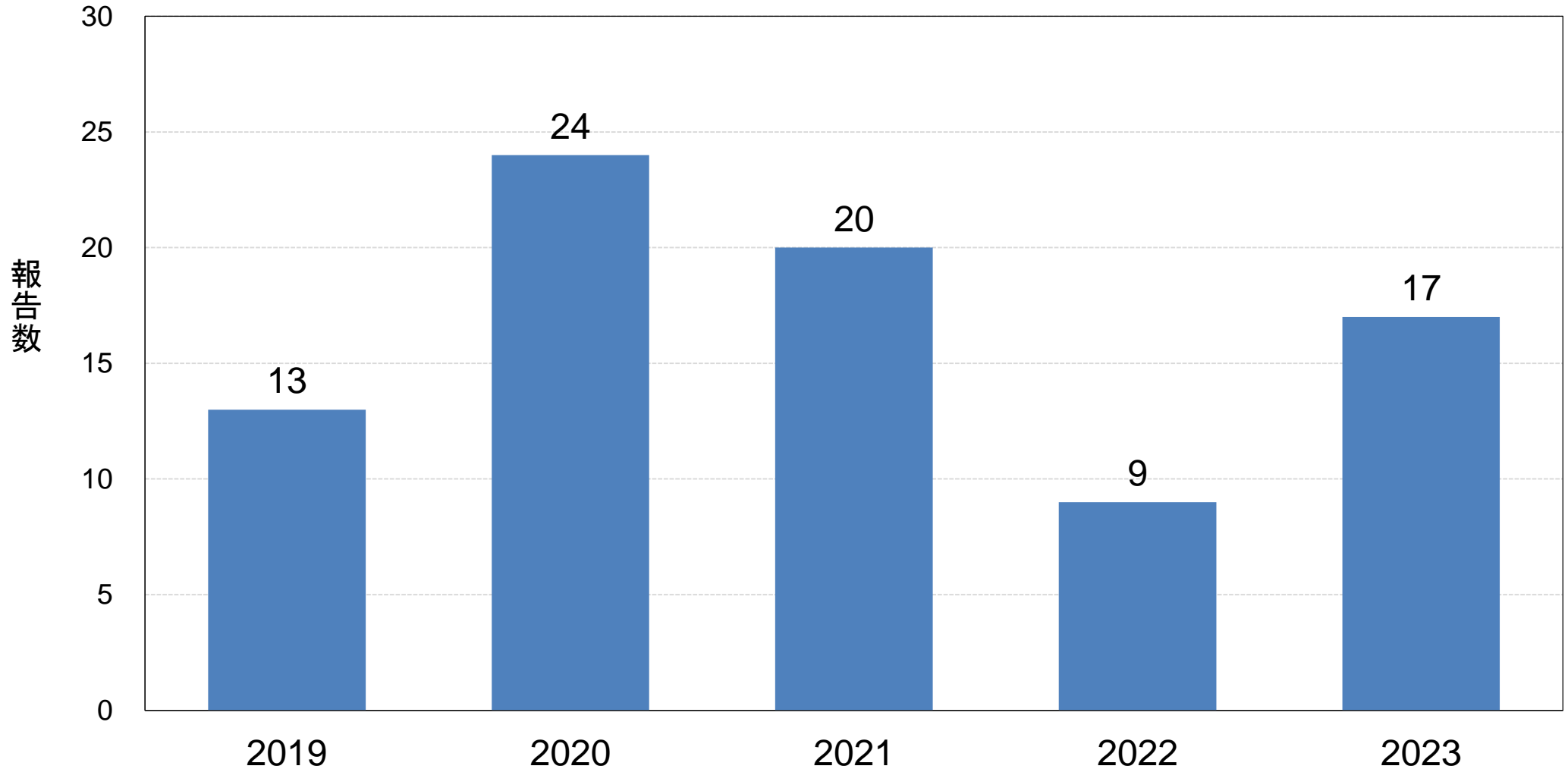
（ダニ媒介感染症）



- 2022～2023年と2年続けて多くの報告があり、2019年の報告と比べて3倍以上の水準を示した。

北海道におけるライム病の発生状況（2019～2023年）

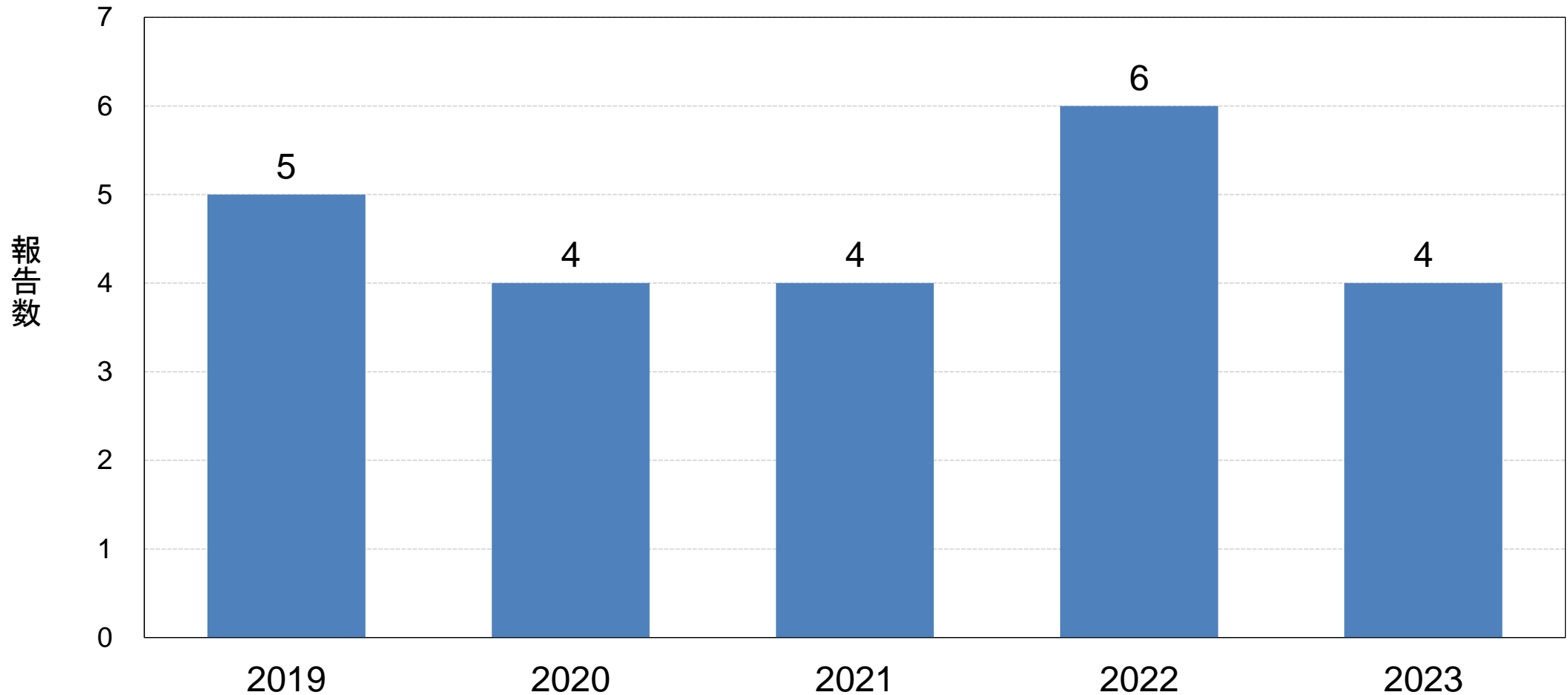
（ダニ媒介感染症）



- 2020年から減少傾向にあったが、2023年は前年より増加した。

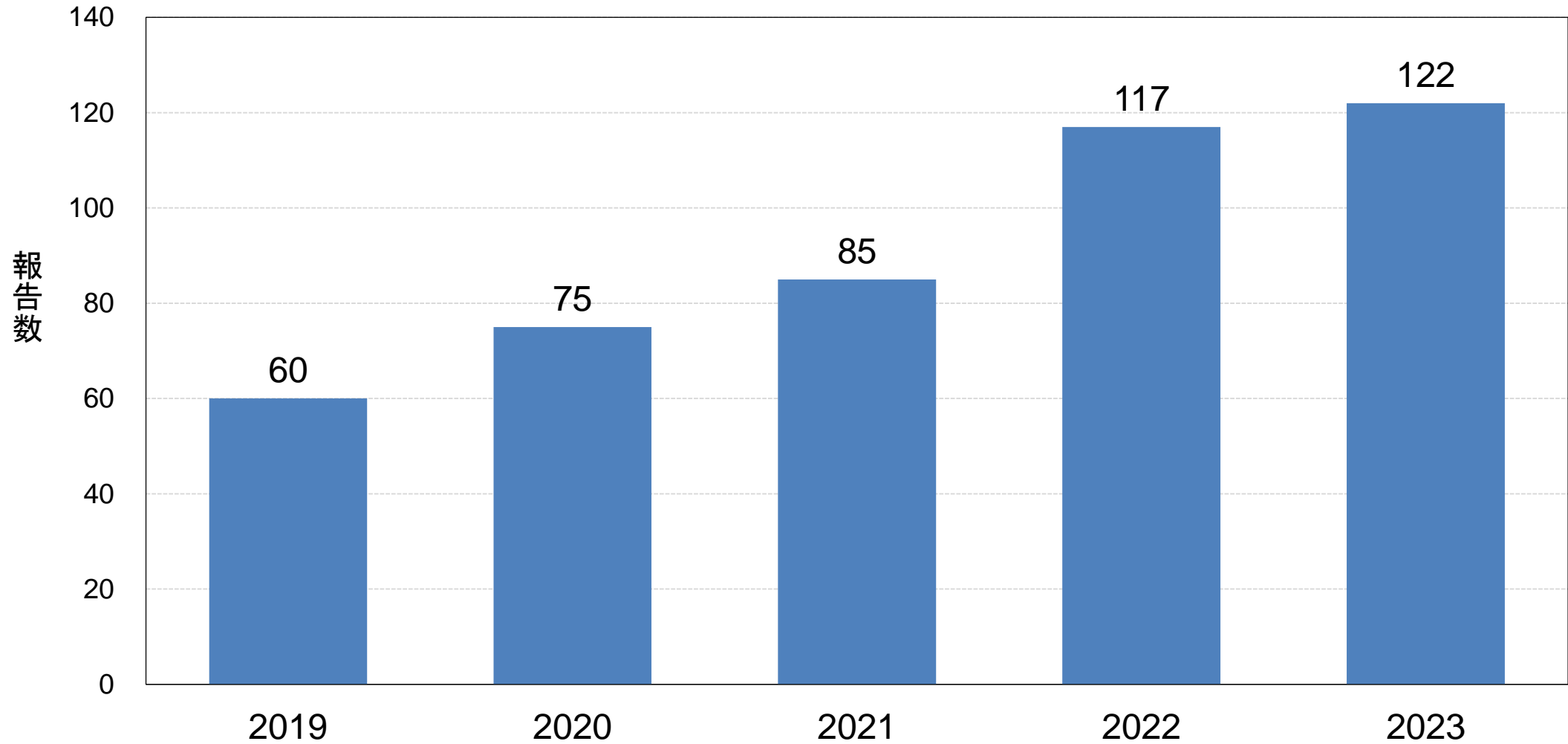
北海道におけるウイルス性肝炎の発生状況（2019～2023年）

（A型肝炎及びE型肝炎を除く）



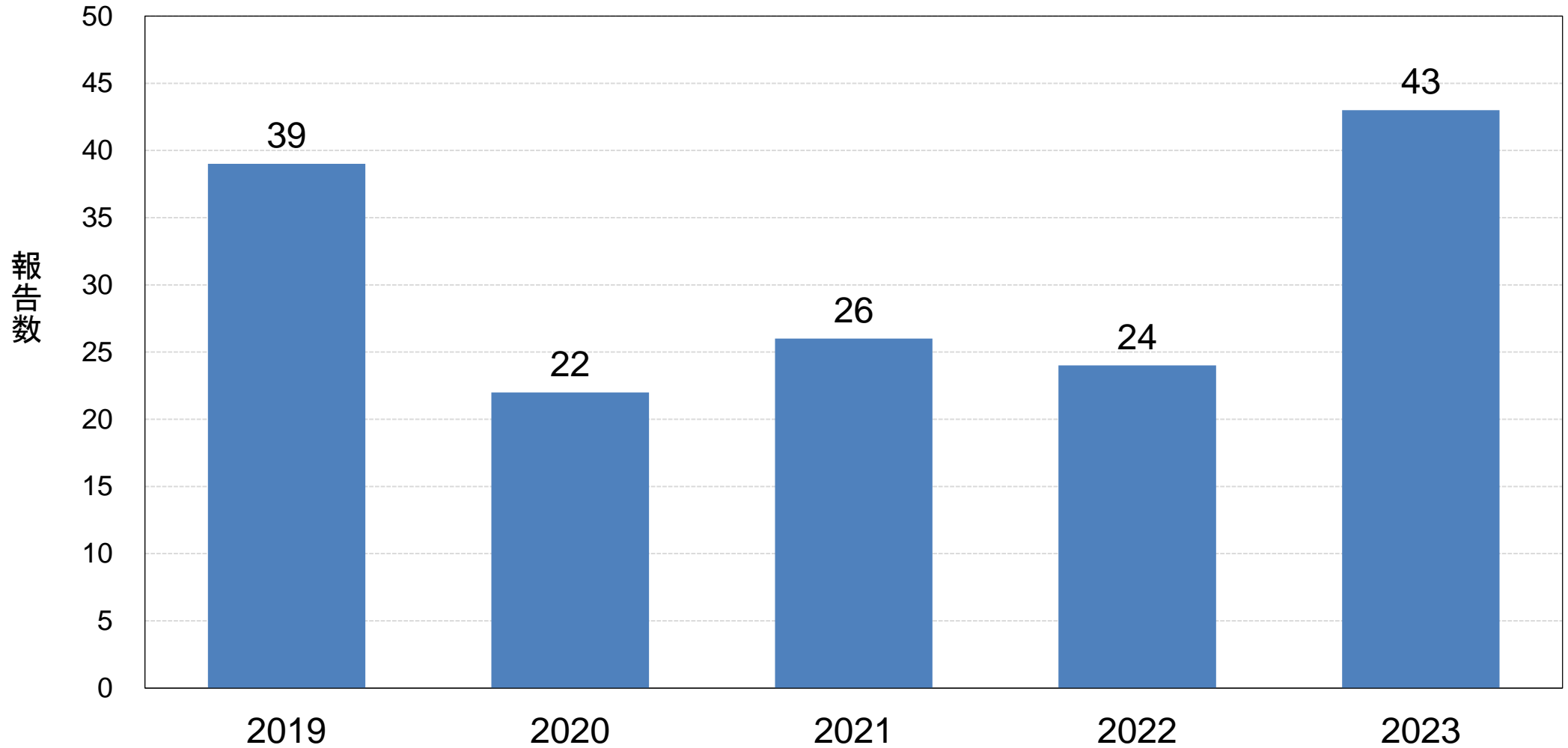
- 過去5年の報告数は年間5例前後で推移している。

北海道におけるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の発生状況 (2019～2023年)



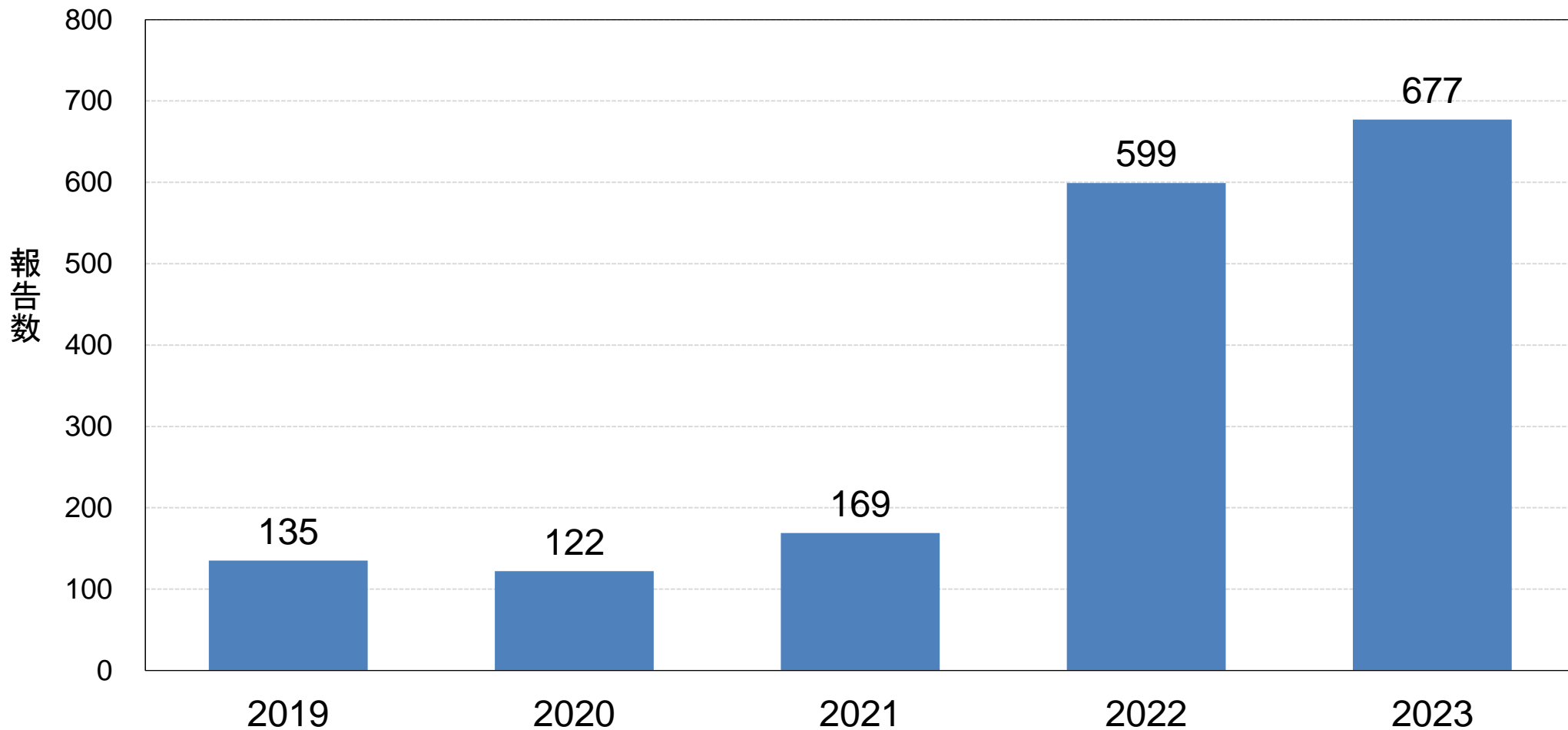
- 年々増加しており、2023年は2019年の約2倍となった。

北海道における後天性免疫不全症候群の発生状況（2019～2023年）



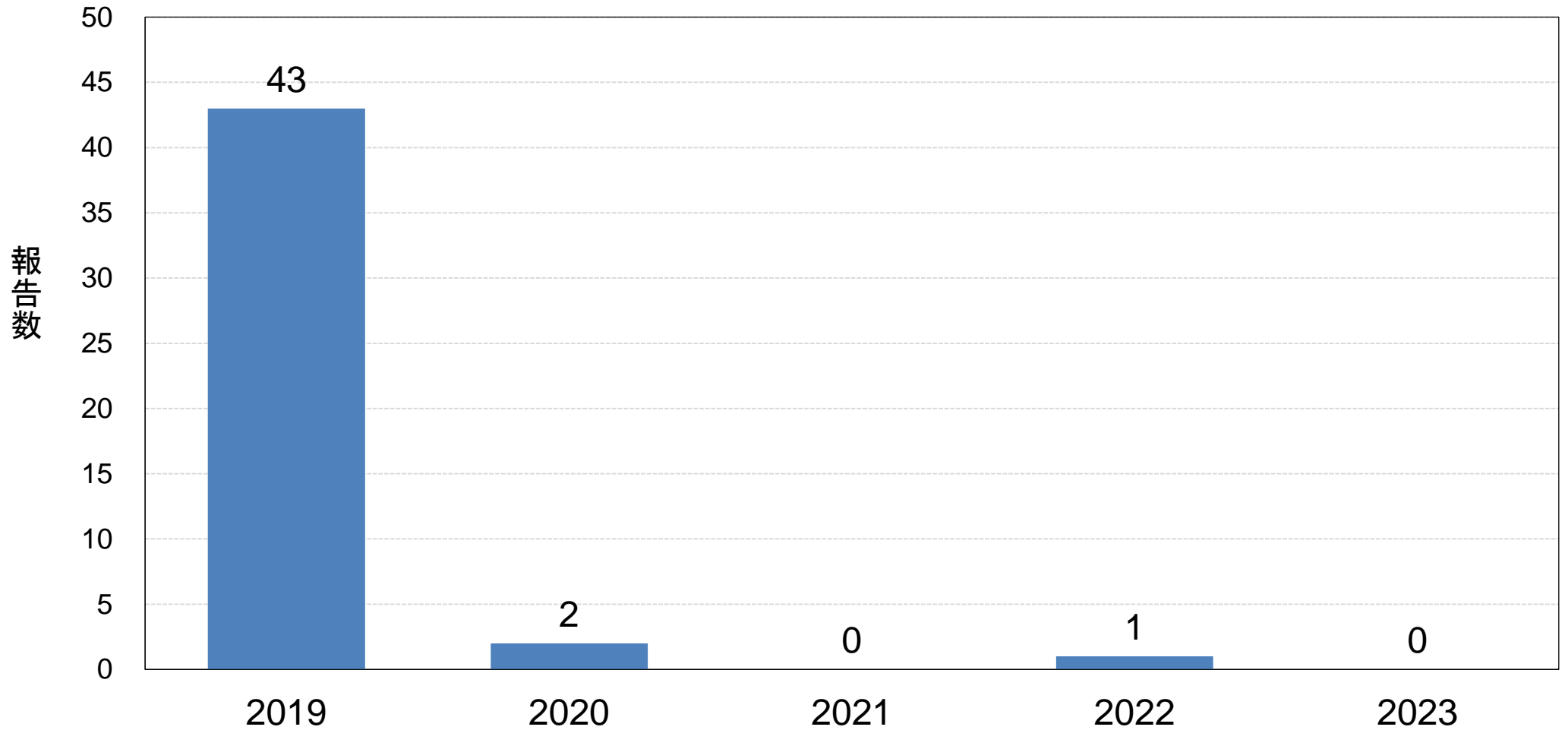
- 2020年から2022年まで20件台で推移していたが、2023年は前年より増加した。

北海道における梅毒の発生状況（2019～2023年）



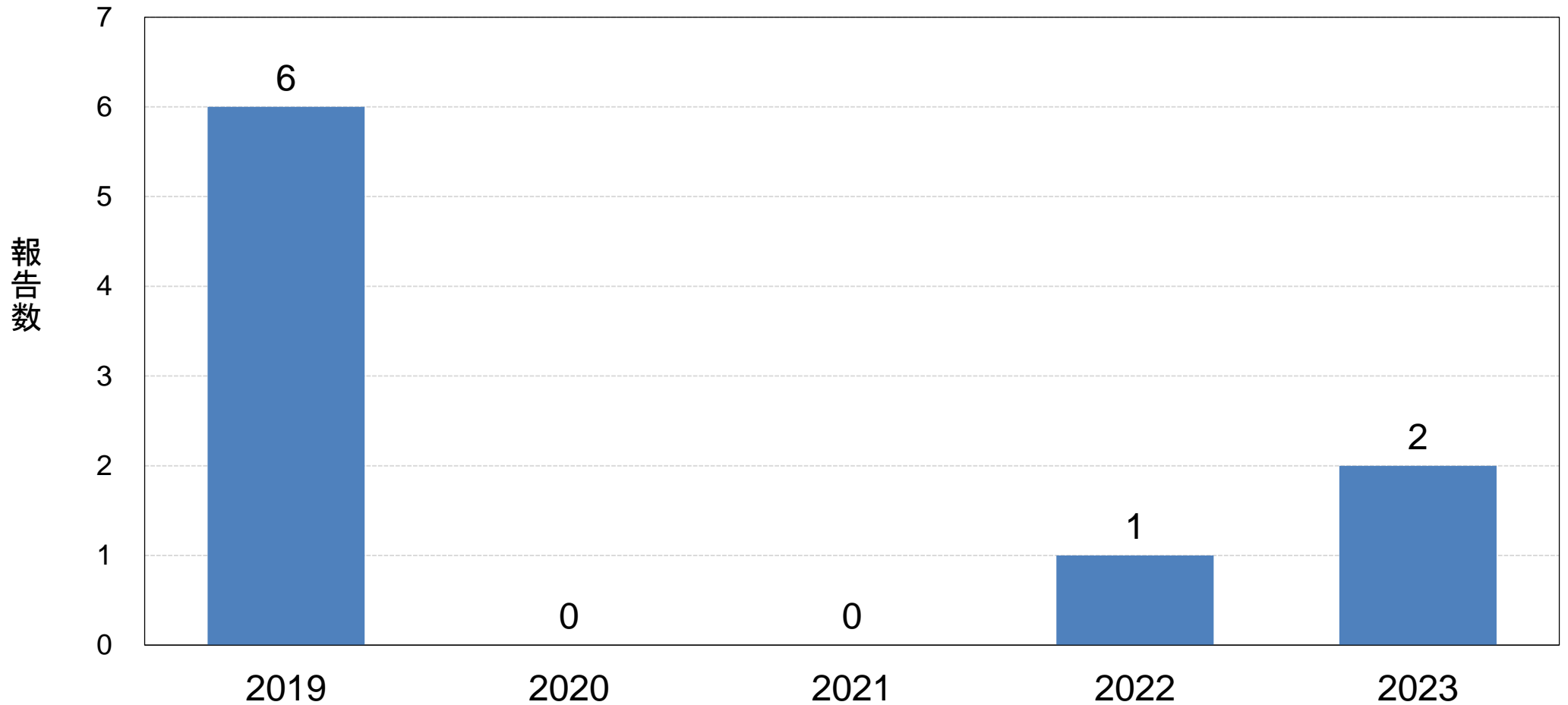
- 2022年は2021年の3倍以上に増加し、2023年はさらに増加した。

北海道における風しんの発生状況（2019～2023年）



- 2020年以降0～2例で推移している。

北海道における麻しんの発生状況（2019～2023年）



- 2019年は6例の報告がみられたが、2020年以降は0～2例で推移している。